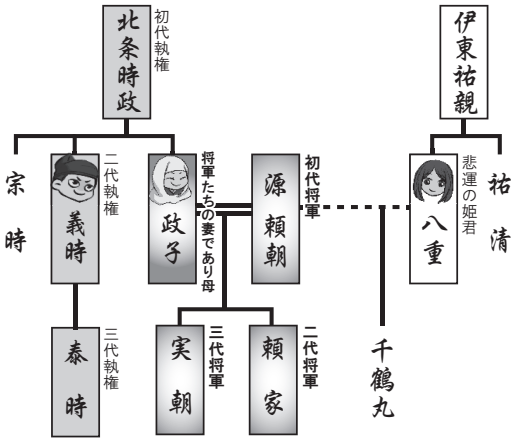




13人の合議制

二代将軍頼朝のために作られた『御家人の合議制』。メンバーは北条時政・義時の2人と有力御家人7人(比企能員、梶原景時、和田義盛、八田知家、足立遠元、三浦義澄、安達盛長)と、京から来た文官4人(中原親能、二階堂行政、大江広元、三善康信)。

ついに御家人の頂点である執権まで登りつめ、二代将軍頼朝、三代将軍実朝を支えます。

源氏の将軍が三代で途絶えた後も義時は執権を務め、後鳥羽上皇の朝廷軍と、東国武士を率いて戦った承久の乱の勝利を経て、北条家が代々執権職に就くことになったのです。これ以降の日本は、江戸時代が終わり明治時代が始まるまでの約600年以上の間、武家政権が続くことになります。

江戸幕府を開いた徳川家康も『吾妻鏡』を愛読していたと言われています。伊豆の国市ゆかりの源頼朝と北条政子・義時は、武士の世の礎を築いた偉人だったのです。



中央図書館や葦山図書館には、『吾妻鏡』や各登場人物の専門書、郷土の歴史研究書、大河ドラマに関する本がそろっています。図書館の本を読めば、伊豆の国市の歴史がもっと詳しく分かりますよ。

1225年	1224年	1221年	1219年	1205年	1199年
嘉禄元年	貞応3年	承久3年	建保7年 承久元年	建保6年 建保3年 建保2年	元久2年 正治元年 正治2年 建仁2年 建仁3年
政子が死去。 大江広元が死去。	義時が死去、泰時が三代執権となる。	順徳上皇が佐渡に配流される。 三善康信が死去。	幕府軍が宇治川で上皇軍を撃破。 後鳥羽上皇が出家し、隠岐に配流される。	謀反の疑いをかけられた畠山重忠が討ち取られる(畠山重忠の乱)。 義時が父時政を追放(牧氏の変)。 義時が実質的な執権となる。	頼朝が死去し、頼朝の嫡男・源頼家が家督を継ぐ。 18歳の頼家を補佐する『13人の御家人による合議制』が発足。 梶原景時が討ち取られる。三浦義澄、安達盛長が死去する。 頼家が二代将軍に就任する。 頼家の外戚・比企能員が北条家に討たれる(比企能員の乱)。 頼家の弟・源実朝が三代将軍に就任する。 将軍職を解かれた頼家が修禅寺に幽閉される。
鎌倉時代					

承久の乱で武家が朝廷に勝利し、以後600年以上、武家政権は続くのです！

承久の乱では、東国武士たちが奮戦しました！

頼朝様が亡くなって私は尼になりました。

平安時代末期、京の都では、藤原氏のような貴族に代わり、「源氏」や「平氏」といった武士のグループが権力を争っていました。この争いに敗れて京を追い出された源頼朝は伊豆に配流され、この地との縁が始まります。配流中に頼朝は、伊東祐親の娘・八重と恋仲になりましたが、祐親により引き裂かれました。その後、北条時政の保護を受けて、その娘・政子と結婚し、時政の子・北条義時(江間小四郎)が頼朝の義弟となります。

政子の結婚により北条家は頼朝と強く結びつき、平家打倒の旗揚げから、平家を滅亡させ鎌倉幕府を開くまでに、頼朝の側近としての地位を築いていくのです。

頼朝が死去したのち、時政・義時父子は、将軍を補佐する『13人の御家人による合議制』の中心に身を置きます。北条家はその後の御家人同士の権力争いにも勝利し、

大河ドラマ『鎌倉殿の13人』の舞台は、平安時代末期〜鎌倉時代初期。ここでは、物語の参考となった歴史書『吾妻鏡』の記述などをもとに、源頼朝と北条政子、北条義時の活躍を中心にまとめてみました。

読めばあなたも、『鎌倉殿の13人』の世界がもっとよく分かるかもしれません。

伊豆国と武士の始まり

1192年	1185年	1180年	1160年
建久4年	建久3年 文治5年	文治元年 元暦元年 寿永2年	治承4年 治承元年 長寛元年 永暦元年
頼朝、富士の巻狩りを開催。曾我兄弟が仇討ちを果たす。	頼朝が征夷大将軍に就任する。	頼朝が奥州藤原氏を滅ぼす(奥州合戦)。 頼朝が二代将軍に就任する。	源頼朝が伊豆に流される。 北条時政の子・北条義時が生まれる(現在の寺家・史跡北条氏邸跡)。 頼朝と、伊東祐親の娘・八重との間に千鶴丸が生まれる。 祐親が千鶴丸を殺害し、八重を江馬次郎に嫁がせる。 北条氏邸に保護された頼朝が、北条政子と結婚する。
鎌倉時代			

平家滅亡により、源氏の鎌倉時代が幕を開けます！

頼朝殿や義時殿が生まれた頃はまだ平安時代でした。